

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)

在外研究

2016年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職		氏名	
	観光学部・教授		大橋 健一 印	
研究課題	社会主義体制下におけるトランスナショナルな人の移動に関する研究			
全研修期間	2016年 9月10日 ~ 2017年 9月 9日 (365日間)			
経費	年度	SFR申請額	所属学部からの補助額	SFR助成額
	2015年度	円	円	円
	2016年度	2,381,000円	850,000円	1,531,000円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ社会人文科学大学		
研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)				
<p>本研究は、グローバル化の進む現代社会に多大な影響を与える重要な現象としてトランスナショナルな人の移動の動態的理解を目的とし、特にその際、従来の研究で等閑視されてきた社会主義体制下での移動に着目し、その特質を現地調査にもとづいて明らかにしようとするものである。現地調査にあたっては、社会主義体制を堅持しつつ東西冷戦終結後のグローバル化に柔軟に対応しながらグローバルな人の移動のハブとなっているベトナムを拠点とし、旧社会主義圏諸国とのトランスナショナルな人の移動の実態を、特にベトナムを結節とする重要な人の移動の発着地としてロシア、ポーランドに着目しながら把握する。本研究は2016年9月~2017年9月の1年間を研究期間としており、2016年度は研究期間の前半部分に相当する。研究は、以下の3つの作業を基本として進めた。</p> <p>1) ベトナム国家大学ハノイ社会人文科学大学を拠点とした社会主義体制下のベトナムにおけるトランスナショナルな人の移動の歴史、および諸制度の変遷に関する調査研究 2) モスクワ国立大学、ロシア科学アカデミー社会政治研究所を中心としたロシア(および旧ソビエト連邦)とベトナムとの間のトランスナショナルな人の移動に関する資料収集、研究者との研究情報交換・討論、およびモスクワにおけるベトナム人移動者コミュニティの実態に関するフィールド調査 3) ワルシャワ大学を中心としたポーランドとベトナムとの間のトランスナショナルな人の移動に関する資料収集、研究者との研究情報交換・討論、およびワルシャワにおけるベトナム人移動者コミュニティの実態に関するフィールド調査</p> <p>2) については、2016年10月3日~30日にモスクワを訪問し、各種研究作業を行ない、モスクワ国立大学における研究セミナー、公開講演会などの機会を通して現地研究者と</p>				

<p>研究成果の概要 (つづき)</p> <p>研究情報交換を行なうとともに、モスクワ市北部のベトナム人移動者コミュニティ施設やモスクワ市南部のバザールにおけるベトナム人の経済活動に関してフィールド調査を行なった。これらの調査研究を通して、ロシア(および旧ソビエト連邦)へのベトナム人の移動の歴史と現状、モスクワにおけるベトナム人コミュニティの実態を把握することができた。</p> <p>3) については、2017年1月18日~2月2日にワルシャワを訪問し、各種研究作業を行ない、ワルシャワ大学における研究セミナーの機会を通して現地研究者と研究情報交換を行なうとともに、ワルシャワ郊外の商業施設におけるベトナム人の経済活動や宗教施設の実態、およびワルシャワにおけるベトナム人コミュニティのテト(旧正月)行事についてフィールド調査を行なった。これらの調査研究を通してポーランドへのベトナム人の移動とそのコミュニティの実態を把握することができた。</p> <p>この他、さらに2016年11月3日にハノイのベトナム社会科学院で開催された「The 3rd International Scientific-Practical Conference on Migration in the Russian Federation, Vietnam and ASEAN Countries in the Context of New Geopolitical Relations and Economic Integration」(ロシア科学アカデミー社会政治研究所・ベトナム社会科学院欧州研究所・ベトナム社会科学院社会学研究所共催)への参加を通してロシア、ベトナムの研究者と本研究の問題関心を共有するとともに今後の共同研究の可能性についての提案を受け、その内容について議論した。これに基づいて、2017年2月5日~9日には、ロシア科学アカデミー社会政治研究所の研究者と共同でベトナム・ニャチャンにおけるロシア人観光移動者に関する現地調査を実施し、旧社会主義圏で構築されたトランスナショナルな人の移動ネットワークの連続性とその現代的な重要性について理解を深めることができた。この調査よりニャチャンに見られる現象の重要性が明らかとなったことから、さらに2017年3月1日~8日にニャチャンで現地調査を継続するとともに、同8日~11日には旧東独およびポーランドからの援助が重点的に投下された都市であるビンにおいて現地調査を行ない、旧社会主義諸国間での人・技術・モノ・知識の移動状況について把握することができた。</p>
<p>キーワード (研究内容をよく表しているものを5項目で記入)</p> <p>[社会主義体制] [人の移動] [トランスナショナリズム] [ベトナム] [旧社会主義圏]</p>
<p>研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①~④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)</p> <p>①雑誌論文(著者名、論文タイトル、雑誌名、巻号、発行年、ページ) ②図書(著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数) ③シンポジウム・公開講演会等の開催(会名、開催日、開催場所) ④その他(学会発表、研究報告書の印刷等)</p> <p>③ 大橋健一「Contemporary Issues in Japanese Anthropology and My Research Interests」(M.V.ロモノーソフ・モスクワ国立大学歴史学部民族学科研究セミナー、2016年10月24日、M.V.ロモノーソフ・モスクワ国立大学歴史学部民族学科)</p> <p>③ 大橋健一「Transnational Tourism Mobilities: A Challenge to Sociology in Late Modern Era」(M.V.ロモノーソフ・モスクワ国立大学社会学部公開講演会、2016年10月25日、M.V.ロモノーソフ・モスクワ国立大学社会学部)</p> <p>③ 大橋健一「Tourism and Post-Socialist Legacy」(ワルシャワ大学社会学研究所研究セミナー、2017年1月24日、ワルシャワ大学社会学研究所)</p>

※ この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。